

令和6年度 第1回 学校運営協議会

日時：令和6年7月8日(月) 15:00～16:00

場所：校長室

出席者：大東委員、田中委員、宇佐美委員、石田委員、多賀委員

事務局：浦校長、辻教頭、中川事務長、小林首席、岩田首席

欠席者：松宮委員

内容

1 会長および副会長選出（会長：佛教大学 大東教授 副会長：大阪誠昭会 田中理事長）

2 会長挨拶

3 校長挨拶

4 委員の紹介、事務局の紹介

（佛教大学 大東教授、大阪誠昭会 田中理事長、寝屋川市立第10中学校 宇佐美校長
寝屋川市社明運動十中校区協議会 石田会長、本校 多賀PTA会長）

5 学校経営計画について

中期的目標に対する活動報告

- ・確かな学力の定着と学びの進化：進路指導の充実に取り組む
- ・部活動加入率増加に向けて取り組む
- ・学校生活における規律を身に付けさせる
- ・学校教育活動の積極的な情報発信を行う
- ・ストレスチェックを活用し職場環境の改善を図る

6. 協議（敬称略）

①職員研修について

（大東会長）1年目の教員に対してオンデマンドで研修はしているか。

（校長）今年度からPLANTを使って誰がいつ何を受けたかを自分で管理して行う様々な研修ができたが、学校の現場に即した研修が必要である。近くにいる教員から具体的なアドバイスをもらいながらやるのが本校の教員が求めるスタイルと思われる。

（大東会長）学校独自でこのスタイルで実施来るとは素晴らしいが、もしオンラインなどを使った研修があるならば臨機応変に使っていただきたい。

（田中副会長）臆らしさを出すことが一番重要なポイントであると思われる。どこかに力点を置いていかないと埋もれてしまう。いろいろなファクターのすり合わせをしながら臆しかなないものを作り上げていただきたい。

（校長）関西外国語大学の2名のインターンシップの学生に、ALTの先生の英語授業に入ってもらった。3人のネイティブの先生に生徒たちは英語を多用するなどクオリティが高い授業を見た。英語が好きな生徒も多い。その他に、オーストラリアとオンラインで交流をするなど第2言語に興味関心を持っている生徒が多く、このような交流を通じて経験値を豊かにする学校にしたい。

（田中副会長）本園では寝屋川市国際交流協会に入っただき、ニューポート市と交流をさせていただきプレゼント交換などもした。このように団体と学校が協働して定番化していき、臆しかなない仕組みを作してほしい。

（大東会長）探究活動は各校バラバラだと思うが、国際交流という形の中でほかの科目とどう関係しているのかをふまえて展開していく。例えば、社会科のなかでどう関係

づけていくのかなど研修をして阜が丘の特徴を作っていただくのはどうだろうか。

②令和7年度の教科書採択について

(大東会長) 令和7年度の教科書採択についての説明をお願いしたい。

(小林首席) 今年度初めて3学年とも3観点がそろったが、同じような形の教科書を継続して使用する。

(大東会長) 承認していただけるか。→ 出席された委員の方から承認をえる。

③第14期生の進路状況について (校長からの報告)

(大東先生) ある特定の大学に入学する生徒が多いのはなぜか。

(校長) 最近、行きたい大学に合格しても近い方に進学する生徒が増えている。

(大東会長) 遠い近いではなくて、大学にこうしてほしいという要望はないか。

(小林首席) 説明会をして大学のことを話すか、自分から知ろうとする生徒が少ない。

(辻教頭) 早いうちから生徒が興味関心を持っている大学に高校から声をかけさせていただき、それをきっかけに大学のオープンスクールに行かせる。このようなきっかけをつくっていけば意識が変わってくる。

(大東先生) 大学も少子化の中、いろいろな工夫や企画の立案、出張講義など取組んできているが、もっと高校の方からこのようなことができないかなど話しかけていただくと良いかと思う。1年生のうちから大学に相談いただけたらと思います。

④働き方改革推進について

(校長) 事前に資料の確認のお願いや本校のトップページのリンクに資料の掲載、ホワイトボードの活用や声掛けなどもしたところ会議の時間の短縮につながった。事前に資料を見てもらっているのも、会議の進行がスムーズになった。また印刷物もすくなくなりストレスが減った。

(田中副会長) その人でないと仕事がまわらないのがある。紙ではなくICT機器を使って常にアップデートしたものを共通の認識とする。作るまでは大変だが、そのあとは最新のマニュアルで全員が同じ基準の質でまわるので大きな時間の削減につながる。ただ、ICTをどう使うかが大切であり、みんなの意識の統一がないままで仕事をしてはいけない。共通認識で阜ワードというものを作っていくとより時間削減に拍車がかかる。

(校長) 統一したものでやると時間削減につながる。基本的に報告、連絡、相談を大事にする。誰かいないと動かないでは良くない。チームで動く。また、ICTをうまく活用していく。

⑤その他

(宇佐委員) 高校側から大学への働きかけの話が出ていたが、中学も同じように高校への思いがある。なぜこの高校を選んだかの理由を聞くと、実際に高校を訪れていろいろな話を聞いた中学生はちゃんとした理由を持っている。中学校と関わる機会を作っていただきたい。

(石田委員) 高校生しかできないことで地域と関わっていただきたい。

(多賀委員) 登下校の安全の確保をお願いしたい。

(大東会長) 自転車マナーについて、それ自体を生徒自身に考えさせ、学習と生活指導をどうつなげるのか。自発的にどうすればよくなるのかを取り組ませ、それを探究活動につなげていくと改善していくと思われる。

以上